人のいる風景
SCENERY OF PEOPLE

菊地 勝 さん

MASARU KIKUCHI

SCENERY OF PEOPLE

【きくち　まさる　さん】富士／68歳
●退職後、独学で作詞活動をはじめる。昨年、日本作詩家協会主催の「日本作詩大賞」で新人賞を受賞。新人賞は、全国から集まった2,292作品の中から選ばれた最高位の賞。
※受賞作品「恋…一夜」を収めたＣＤは全国で販売中。

リズム感のある歌詞で伝える「共感できる思い」

全国の作詞家を目指す方が、それぞれの思いを込めた演歌の詞を応募して、その出来映えを競う「日本作詩大賞」。昨年、最高位の賞である新人賞を受賞した菊地さん。取材で自宅を訪れると、玄関はたくさんのお祝いの花で囲まれていました。

7年ほど前に趣味で作詞をはじめた菊地さん。5回目の応募での受賞に「いつかは賞をとりたいと目標にしてきたので嬉しい」と語ります。

新人賞に輝いた「恋…一夜」は、女性のかなわぬ恋心を描いた曲です。

「恋は『ままにならない（思うようにならない）もの』で、共感できる方が多いのでは」と菊地さん。

題は、万葉集にある山部赤人の歌に登場する「一夜草」がきっかけになりました。詞につかえそうな印象的で良い言葉をいつでも探していると言います。

詞をつくるときは、最初に全体の物語を描き、それにあった言葉を探しながら歌詞を組み立てていきます。

「詞にはリズム感が大切です。例えば3番までの歌では、1番・2番・3番で、詞の文字数をあわせなければなりません。何度も言葉を入れ替えて、自分の描いた物語を詞にしていきます。大変ですが、それが作詞の醍醐味です」と語ります。

限られた文字数で組み立てる歌詞には、ときに「行間を読む」仕掛けが登場します。

「俳句や短歌では、五七五の言葉の中にたくさんの気持ちが込められています。演歌の歌詞も同じです。言葉の向こう側にある『奥ゆかしさ』を感じてもらいたいですね」とやさしく語ります。

「以前、東京と千歳、離れて暮らす男女を主人公にした詞をつくりました。つぎは、地元の歌手と一緒にこの詞を曲として完成させたい」と菊地さん。

空路で結ばれる東京と千歳は行き来がしやすく、会いたいときにいつでも会えるという内容の恋物語。その中には千歳の魅力も込められています。「作詞の活動が千歳の宣伝につながればと思っています。一歩一歩でも、常に前に進んでいきたいですね」力強い眼で語ってくれました。

「恋…一夜」
人目をひくよな　花よりも
そっと野に咲く　花が好き
そんな貴方の　優しさが　私を泣かせるの
辛くなる　辛くなる
深まる愛が　せつなくて
そっと咲かせて　そっと咲かせて　恋…一夜